新型コロナ感染予防と支援策

緊急事態宣言再び――切迫した状況に

1月13日、福岡県に2度目の緊急事態宣言が発出されました。市内でも感染者が急増しています。自分や大切な人の命を守るためには、一人一人の感染予防の徹底が必要です。

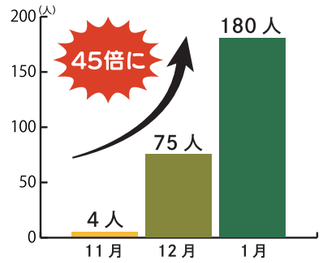
家庭内感染が急増

市内の新型コロナ感染者数が増加しています。昨年11月は4人だった感染者が、12月には急増し75人に。1月も増え続け21日までで180人に上りました。これは大変切迫した状況です。特に10～20代の若者の感染が全体の34％を占め、続いて40代が18％、30代が10％です。1月に確認された感染経路のうち、32％が家庭内で、18％が会食での感染です。年末年始の会食などで感染し、家庭内で広まった事例が多く見られます。

医療崩壊を防ぐために

市内の医療体制は逼迫（ひっぱく）しています。医療が崩壊すると、通常の診療もできなくなります。感染拡大を防ぐため、もう一度感染予防対策の確認と徹底を。

■月ごとの市内の感染者数推移（1月21日時点）



【基本的な対策】■マスクを着用し手洗いを徹底する■定期的な換気を行う■体調が悪いときは相談もしくは早めの受診を

【会食】■感染対策が十分な店を選び少人数・短時間で。できるだけ普段から一緒にいる人と

【外出・移動】■不要不急の外出・移動を自粛する（20時以降は徹底）■高齢者との接触は慎重に

㊐**市新型コロナウイルス相談センター**（☎0942・30・9335、FAX0942・30・9833）

㊐保健予防課（☎0942・30・9730、FAX0942・30・9833）

力を合わせて、コロナに打ち勝っていきましょう！

県知事や両政令市長、久留米市長、県医師会長などがネット動画で予防の徹底を呼び掛けています

県ホームページ「感染拡大に伴う緊急事態措置について」へ 詳しくはQRコード

事業者への独自支援を継続

緊急事態宣言の再発出で、事業者に営業時間の短縮やテレワークの推進などを求めています。市は独自の支援策などで事業者の支援に取り組んでいます。

■市融資制度新型コロナウイルス感染症特別枠

中小・小規模事業者へ最大500万円の融資を行っています。金利は0・8％で、市が保証料の全額負担と5年間の利子を補助。最大5年間元金の据え置きが可能。セーフティネット保証4号か危機関連保証の認定が必要です。

■テレワーク・クラウドサービス導入補助金

新しい働き方に対応したテレワークやクラウドサービスを始める中小・小規模事業者を支援します。対象はソフトウエアなどの利用料、機器購入費など。上限は30万円で、補助率は4分の3です。

■オンライン商談コンテンツ作成支援補助金

コロナ禍の非対面型ビジネスに取り組む中小・小規模事業者を支援します。対象はオンライン商談や展示会で使うPR動画など企業間取引用デジタルコンテンツ作成の委託費。上限は30万円で、補助率は4分の3です。

㊐商工政策課（☎0942・30・9133、FAX0942・30・9707）

福岡県の事業者支援

■県感染拡大防止協力金

県の要請に応じて、1月16日から2月7日㈰までの全ての期間に営業時間短縮を行った飲食店などに協力金を支給。最大138万円（1日あたり6万円×23日）。

㊐福岡県感染拡大防止協力金コールセンター（☎0120・567・918、平日・土・日曜・祝日の9時から17時）

市ホームページ「新型コロナウイルスに関する情報」へ 詳しくはQRコード

営業時間短縮に協力してもらっている飲食店の様子

地域で頑張る皆さんにエールを送ろう

毎年市民の皆さんが楽しみにしているイベントも中止になりました。これまで準備をしていた皆さんにインタビューしました。

城島の酒をドライブスルーで

「城島酒蔵びらき」は、これまで26年間毎年開催してきました。中止になったのは今年が初めてです。

昨年7月頃から10回以上にわたり、協議を重ねてきました。毎年楽しみにしてくださっている人や、地域ブランドのPRや文化継承のためにも、なるべく開催したいという強い思いがあったんです。

感染対策に取り組み、安全に開催するため、県のコロナ対策アドバイザーにも相談しました。チケットは前売り制にし、人数制限を設け、収容可能人数の半分に。立ち飲み席にはパーテーションを設置する予定でした。角打ちなどの毎年恒例のイベントも縮小し、出店も1割程度に減らすことで準備を進めていました。そんな中、1月13日に緊急事態宣言が発出されました。苦渋の決断で、今回は中止をせざるを得ませんでした。残念ですが、来年はぜひ開催したいと思います。

酒蔵びらきは中止になりましたが、2月13、14日に蔵元や地域の有志によるドライブスルー販売が城島総合支所付近で行われます。お酒の他に特産品などの販売もありますので、ぜひお越しください。

「来年は、万全な対策で安全に城島酒蔵びらきを開催したいですね」と上野さんは話します

披露できる日を楽しみに

久留米市消防団は消防活動などに加えて、有馬火消しはしご隊の演技活動を行っています。

新型コロナの流行で昨年3月上旬から消防団の活動を満足に行えない状態です。消防団の活動の中で欠かせないのが合同訓練です。消防活動は1人だけで行うものではなく、たくさんの人が協力し合うもの。そのために必要な合同訓練が思うように行えていません。できることはポンプ車点検や揚水訓練など基本的な訓練のみです。はしご隊の演技を披露する水の祭典や出初め式も中止になり、活動は縮小しています。

はしご隊の演技は、練習をせずに急にできるものではなく、日頃の訓練が重要です。はしごは約8mもの高さになりますが、訓練で高さへの恐怖を乗り越え、様々な技に挑戦していくことで、観客を魅了する演技につながっていきます。新型コロナで訓練が制限されている中、はしごに登ったり、皆で呼吸を合わせたりする感覚が振り出しに戻らないよう、できる限り機会を作って訓練しています。

今は皆さんへお披露目ができないもどかしさもありますが、体力維持に努めながら、いつでも演技が披露できるよう隊員一人一人がしっかり準備しているところです。新型コロナで悔しい、寂しい思いをした分、一刻も早く事態の収束を願うとともに、披露できる日が来ることを楽しみにしています。その時はしっかり演技したいですね。

「昨年から隊長になりました。たくさんの人に演技を見てほしいです」と佐古さんは前を向きます